

第11章 長期フォローアップ

長期フォローアップにおける看護ケアの指針

- ❖ 診断時から身体的問題・PTSDなどの精神的問題に対する予防的な介入が重要であり、家族を含めて支援を行う。
- ❖ 小児がんの長期的影響は原疾患、治療により異なるものの、様々なものがあり、リスクに見合った受療が必要である。
- ❖ 日本人の白血病患者に多い晩期合併症は、成長障害・臓器機能障害・生殖機能障害・2次がんがあり、これらの長期的影響が日常生活へ及ぼす影響を査定し、継続的な治療・看護を行うことが重要である。
- ❖ 復学・社会復帰にあたって、学校関係者・雇用側への情報開示や受診等に関する配慮などの調整が必要である。

近年の小児がん医療の進展に伴って、治療終了者の5年寛解生存率は70-80%に上昇しています。日本の小児がんの長期生存者（以下、小児がん経験者）は推計5万人以上といわれ、20歳以上の小児がん経験者数は成人の400-1000人に1人に相当します。しかし成長発達途上の子どもにとって、がんとその治療が及ぼす影響は大きく、治療終了後も60-70%の経験者が様々な疾患・障害を持つことが報告されています。

小児がん・治療による長期的問題は、a)がん自体によって起こるもの、b)がん治療により引き起こされ持続するもの、c)治療終了時には問題ないものの、成長発達に伴って明らかになるものがあります。身体的な晩期合併症は複数で見られることも多く、診断後の年数が経過するほど発現率が上昇します。また日本の調査は限られているものの、患者・家族は何らかの心的外傷後ストレス症状（Post Traumatic Stress Symptom：PTSS 侵入症状、麻痺症状、過覚醒症状を指す）をもち、これらの全ての症状により日常生活が著しく障害される心的外傷後ストレス障害（Post Traumatic Stress Disorder：PTSD）をもつ者や、抑うつ症状、適応障害、心身症など事例も報告されています。

これらの問題については、診断時からの予防的な介入が最も重要ですが、治療終了時の心理社会面のアセスメントと共に、晩期合併症が心理・社会面に及ぼす影響を理解し、可能な限りのQOLを獲得できるよう家族を含めた支援を継続します。復学、社会復帰については、学校関係者、雇用側への情報開示や受診等に関する配慮などの調整が必要となります。

11-1 晩期合併症

晩期合併症は以下の4つに分けられます。疾患そのものの管理と共に、これらの合併症が生活にどのような影響を及ぼしているかを査定し、調整を行うことが重要です。

a) 成長障害

低身長、筋・骨格・軟部組織等への影響は腫瘍そのもの、化学療法、放射線によるものがあります。特に頭蓋照射による下垂体や甲状腺への影響が問題です。治療終了後の身長・体重の推移等、全身の発育状態を継続的に観察する必要があり、内分泌等の専門医の治療が必要です。白質脳症、血管障害、てんかん等により、認知・知能障害、学習障害が生じることもあります。

b) 臓器機能障害

心・呼吸機能、腎機能、内分泌機能、消化管機能、視力・聴力障害があります。

c) 生殖障害

放射線やアルキル化剤により起き、思春期早発・遅発、性腺機能低下症、妊孕力の問題などがあります。いずれも専門医による治療が必要です。第2次性徴に関する適切なアセスメントを行い、問題を早期に発見すると共に、10代の患者に対して十分な説明を行い、治療に対する理解を促す必要があります。第2次性徴に関する問題については親子間のコミュニケーションが不備な場合も多いため、双方の気持ちや考えを確かめ、親が支えとなれるように支援します。

d) 2次がん

良性腫瘍、悪性腫瘍を含みます。治療終了後から 10 年以内のものとしては、白血病、骨髄異型性症候群、脳腫瘍、10 年以上のものでは骨肉腫、軟部組織腫瘍、甲状腺がん、乳がんなどがあります。肺がんや大腸がんなどの成人型は 20 年以上の経過で発現率が高くなります。米国の報告では、小児がん経験者の死亡原因は 2 次がんが最も多いとされています。再発自体は治療終了後 15 年で増加しなくなるものの、15 年以後は 2 次がん、心合併症、呼吸器合併症など晩期合併症に関するものが問題となり、健常人と比較するとこれらによる死亡危険度も高くなります。

11-2 教育的ケア

治療終了前より、晩期合併症のリスクをふまえた健康教育や定期的な健康診査やがんスクリーニング等の計画を立て、情報提供や教育を段階的に行う必要があります。日本では、小児がん治療終了後 5 年で小児慢性特定疾患の受給期限が終了することなどから、経済的支援も重要です。

文献

日本小児内分泌学会 CCS 委員会 (2012) : 小児がん経験者 (CCS) のための内分泌フォローアップガイド ver1.1.

丸光恵, 石田也寸志監修 (2009) : 第 9 章 小児がん経験者の長期フォローアップと看護, ココからはじめる小児がん看護, へるす出版.

